

リスクマネジメント --- 医療の合理的な政策と対策を求めて

連盟・学会理事長 酒井亮二

米国議会と大統領府が「リスクマネジメント科学」の重大性を宣言した最大の理由は、際限なく拡大する様々な政策と対策について、限りある資源の有効利用の観点から合理的な意思決定メカニズムを解明することでした。一言でいえば、「無計画な社会改革提言から、誰もが納得する合理的な社会変革へ」でしょう。

さて、最近の日本では「医療を担う人材の圧倒的な不足」に関して政府から大変明快な大スローガンが示され、日本医療界の最大の難問である医療の量と質に関する問題解決に対する歴史的な転換を迎えつつあります。

米国におけるリスクマネジメントの最大の関心事の1つは、意思決定における合理的な財務計画の策定です。日本の医療改革にも合理的なロードマップの存在が不可欠であり、それぞれには、以下のマネジメント・プロセスが必要です。

- 1) 1つ1つの対策がどの程度の効果量を予測できるかの科学的評価
--- 各提案により、どの医療リスクがどの程度の量まで低減できるかを予測する。
- 2) 各提案への投資額と1)の予測効果量による費用効果分析
- 3) 以上の科学的推論に基づく、各対策の優先順位の決定
- 4) 採択された対策の一定期間のゴール(効果量)の決定
- 5) 対策実施のためのより効果的な手法の開発
- 6) 対策実施後の一定期間における効果量の評価

リスクマネジメントではその透明性が最重要な指針ですから、以上のプロセスを国民に明示することにより国民の納得と支持が得られるものです。

以上のマネジメントの基本的考え方は、おのおのの医療機関でのクリニカル・ガバナンスにも共通する基本命題と考えられ、これにより医療従事者と患者さんの双方が納得・支持する医療の世界が実現すると考える次第です。